

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	0171200181		
法人名	有限会社 クローバー		
事業所名	ぐるーぷほーむ 花いちもんめ		
所在地	恵庭市恵み野東7丁目5番6号 (電話) 0123-37-4213		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年12月12日	評価確定日	平成20年12月20日

【情報提供票より】 (20年 10月 27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	6月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	9 人	常勤	1人,	非常勤 8人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000~42,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 18,000円 暖房費 (10~4月) 12,000円	
敷金	有 (29,000~42,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	367 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,167 円			

(4) 利用者の概要 (10月 27日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	5名	要介護2	1名		
要介護3		要介護4	3名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85歳	最低	72歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡田内科医院、恵庭第一病院、加藤歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静なベッドタウンの一面に位置する。鉄筋コンクリート2階建ての1階部分を改造して、食堂、リビングは広々としたスペースを確保している。運営者の理念に支えられて、職員の指導、育成が行き届き、職員同士の信頼も厚い。当ホームが呼びかけて市内9ヵ所のグループホームのネットワークを結成し、職員、利用者を含めた、多彩で活発な交流や研修活動を行っている。町内会に参加して行事に参加するなど、地域との交流も盛んである。そのような中で利用者は、積極的に役割を引き受けて家事に参加し、毎日のように散歩や外出を楽しみ、ダンス、ゲーム、百人一首、囲碁、ゲームなどに興じて、明るく、活気のある生活を楽しんでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 市の担当者との連携を積極的に働きかけることが課題として掲げられていたが、市の担当者に利用者の生活事情など各種の問題で相談し、助言を得、また担当者をホームの行事に招き、同業者の会合にも参加させるなど、連携は大きく前進した。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員に対して評価の意義と内容を十分説明した上で、評価の記入を求め、管理者がこれをまとめて自己評価を作成した。職員それぞれとして、また事業所として、自己評価を、日ごろの業務を振り返り、視野を広げて見つめなおすよい機会と捉えて、活用している。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業所の運営状況、利用者の生活の様子、行事、災害対策、自己・外部評価、町内会の行事、などについて報告し、討議している。またグループホームとはどういふところか、についての理解を得る場ともなっている。散歩中の会話について住民の感想が話題になったこともあるが、そのほかにはこれまでのところこれといった意見は出されず、具体的に運営に活かされたような事例は生まれていない。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪の折や日常のかかわりの中で家族の意見を聞き出すように努力している。家族への手紙にもその旨書き添えている。意見や希望と判断されたことは些少に関らず、ミニカンファレンスで取り上げ、対応を協議し、情報を共有している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入して、季節の行事、ミニ運動会、草取り、掃除などに参加して積極的に交流を図っている。近くの小学校からは総合学習の一環で児童が来訪し、交流したこともある。町内会からは福祉新聞が届いている。また、町内の各種のボランティア団体が来訪して歌、踊り、ハーモニカ、太鼓などを披露し、利用者とは交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設の時に、運営者、職員が共に参加して、愛情、優しさ、思いやり、希望という4項目の理念を作成し、経営理念には地域との連携も掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、リビング、休憩室に掲げ、パンフレット、重要事項説明書に掲載し、業務記録ファイルの見返しにも添付するなどして、浸透を図っている。職員は理念をよく理解し、念頭に置いて実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、季節の行事や活動に参加して積極的に交流を図っている。近くの小学校からは総合学習の一環で児童が来訪し、交流したこともある。町内会からは福祉新聞が届いている。また、町内の各種のボランティア団体が来訪して交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に対して評価の意義と内容を十分説明した上で、評価の記入を求め、管理者がこれをまとめて自己評価を作成した。日ごろの業務を振り返り、視野を広めて見つめなおすよい機会と捉えて、活用しているが、調査項目には重複する内容が多い、毎年の実施は過重である、との印象を持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況、利用者の生活の様子、行事、災害対策、自己・外部評価、町内会の行事、などについて報告し、討議している。これまでのところこれといった意見は出されず、具体的に運営に活かされたような事例は生まれていない。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者を、地域の同業者団体であるグループホームネットワークの集まりや事業所の行事などに招くほか、利用者の生活事情、家賃滞納など困難事例、運営推進会議の進め方などについて相談するなどして、緊密な連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族あてに、一人ひとりの利用者の様子を文書にして送付している。また、3ヶ月ごとに広報誌「花だより」を発行して家族のほかに地域の人々にもホームでの様子を伝えている。家族が来訪した際には生活状況、ケアプラン、受診内容などを伝えている。	○	職員の異動については、主要職員に限っての報告となっているが、基本的にはすべての職員の異動について家族に報告するよう、期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪の折や日常の関わりの中で意見を聞き出すように努力している。家族への手紙にもその旨書き添えている。意見や希望と判断されたことは些少に関らず、ミニカンファレンスで取り上げ、対応を協議し、全職員で情報を共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の意向や事情の把握に努め、離職を抑える努力をしている。職員の離職を利用者にことさら知らせるはないが、これまで職員の離職によって利用者が不穏になるなど、ダメージらしい様子を見せたことはない。離職した職員のことはすぐ忘れられるものと考えている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では食中毒流行など、問題が発生した都度、勉強会を行っている。職員育成の計画は特にないが、運営者が適宜状況を判断して研修に派遣している。同業者団体のグループホームネットワークが主催する研修会に参加する機会が多く、他もあわせて職員一人当たり年間3~4回以上の参加機会がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近、市内の同業者9事業所に働きかけてネットワーク組織を作り上げた。各分野での勉強会を頻繁に開催し、市の職員や外部講師も招き、職員の育成に寄与している。職員の相互訪問も近く実施予定である。また、勉強のみならず、利用者を含めたレクリエーションなども実施し、幅広い活動を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と共に本人の見学を奨めているが、実現しないことが多い。まだ馴染みの薄い入居当初は家族と相談し、協力も得ながら徐々に納得の得られる工夫をしている。時には外食や自宅訪問で安心と落ち着きを得る工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を重視し、昔の生活の様子、歌、料理、花の育て方など、知識を披露し、経験を生かせる場面を作っている。利用者の思わぬ優しい気遣いや思いやりに触れて職員は支えられ、癒されている。マスコミの話題に職員、利用者共々一喜一憂し、喜怒哀楽を共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけや会話の工夫をし、意向の把握に努めている。意思表示がはっきりしない時は働きかけへの反応を見るなどして気持ちを推し量っている。また、入浴や夜勤の時など、1対1になって会話が豊かになる場면을重視している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規作成の場合は、家族にセンター方式の書式を用いて基本的な情報の記入を依頼している。入居後2週間ほど、日常生活の観察記録を行い、主治医の意見などを参考にして計画作成担当者が原案を作成している。その後カンファレンスにて意見交換を行い介護計画を作成し本人と家族に説明をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行っている。定期的な見直し以外にも、カンファレンスで日常生活の変化について話し合いをしている。排泄の失敗や水分摂取量の低下などの心身の状態に応じて、本人、家族の意見を把握し、介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、看護師による日常的な健康管理が行われている。医療機関への通院は、家族に依頼するのではなく基本的には、事業所で対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。かかりつけ医と連携し、職員が通院の介助をしている。定期的な検査や複数の診療科目を受診する場合は、家族の協力を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し医療行為が必要となった場合は、入院となることを入居時に家族と話し合っている。看取りを行うことは、考えていないが緊急搬送に備えて、延命治療の有無について話し合い、書面で確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴染みの人間関係から生じる言葉の乱れを戒め、敬語を使うよう心がけている。誇りを傷つけるような言葉かけをしている場合は、運営者が指導をしている。個人情報などの記録のファイルは、オープンスペースのリビングの一面に書棚を設け、保管している。	○	記録類が外来者の目に付かないように、保管場所の工夫を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方について、ケアプランに沿いつつも、一人ひとりの利用者の希望を把握し、本人のペースで生活することができるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成については、試行錯誤を繰り返し、最適な方法を検討してきた。現在は、購入してある食材を組み合わせて当日の食事を作っている。利用者と職員が買物に出かけることもある。もやしのひげ根取りや盛り付け、食器洗いなどを一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	木曜日を除いて毎日午後を入浴時間帯とし、各人週2回の入浴を目標としているが、失禁などがある場合は、その都度入浴をし、身体の清潔を保っている。利用者からは、時間帯についての要望が出されることはないが、柔軟に対応していきたいと考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	乾いた洗濯物を畳む、街路樹の落ち葉を掃除する、プランターの植物に水を遣る、裁縫や編み物をする、テレビの連続ドラマやニュースを観るなど一人ひとりの力に応じて役割や気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前中は、小川や桜並木のある近隣の公園に散歩に出かけている。昔の生活用具が展示してある資料館や図書館への外出、食材の買物など日常的に外出をしている。冬季は路面状況に応じて、危険のない範囲で外出をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。玄関からリビングに入る扉を自動扉から、やや重さのある手動式に切り替えている。玄関のドアや手動式の引き戸に鈴を付けて出入りを把握している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の指導の下、火元の通報や消火器の使用方法などの訓練をしている。運営推進会議終了後に行っているため、委員や地域の人々の参加と協力を得ている。また、自主訓練として夜間を想定した避難訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量が低下している場合は、調理形態を変更したり、早目に受診をしている。水分の摂取は、食事以外に1日1,000mlを目標としており、不足傾向のある利用者を対象に記録をしている。専門的な栄養管理について市や保健センターに相談をしている。	○	利用者全員の水分量を把握しているということなので、全員を対象に記録することができるよう、期待したい。また、管理栄養士による専門的な栄養管理を受けることができるよう、期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入るとリビングや台所などの共有スペースを見渡すことができるが、トイレや浴室はリビングからは見えない位置にある。共有空間の一部に衝立を置き、周りの気配を感じながら一人で過ごす場所を設けている。壁一面が窓となっているので、通りを歩く人々の様子や季節感を身近に感じることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室の入り口には、利用者の手作りの紙細工の暖簾と、小箱に和紙を巻いて作った表札が掛かっている。カーテンやベット、箆筒、衣類、寝具などを家族と協力して整え、本人の生活習慣を尊重した居室づくりがなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。